

第14回雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 を開催しました！

1. 概要

- 今回の協議会は、「第6回雄物川圏域流域治水協議会」と「第14回雄物川圏域大規模氾濫時の緊急減災対策協議会」を同日開催されました。
- 協議会では、令和4年8月に発生した馬場目川水系での洪水被害に対する振り返りを五城目町より説明頂いた。議事では、減災対策協議会における五ヶ年の取組状況や、流域治水協議会における流域治水プロジェクトの変更や新規施策を関係機関よりご説明頂き、意見交換を行った。

2. 日時／実施状況 29の関係機関が参加

- 日時：令和5年2月20日(月) ➢ 会場：WEB会議システム
- 出席者：秋田市、横手市、湯沢市、潟上市、大仙市、仙北市、三種町、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村、美郷町、羽後町、東成瀬村、農林水産省西奥羽土地改良調査管理事務所、林野庁秋田森林管理署・米代西部森林管理署、国土交通省東北運輸局鉄道部、気象庁秋田地方气象台、森林整備センター東北北海道整備局秋田水資源整備事務所、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社、東北電力株式会社秋田発電技術センター、秋田県総務部・農林水産部・建設部、秋田河川国道事務所、成瀬ダム工事事務所、玉川ダム管理所、湯沢河川国道事務所



- #### 議事内容
- 1)馬場目川水系大規模氾濫時の減災対策及び流域治水プロジェクトについて
 - 2)雄物川水系流域治水協議会 作業部会 取組報告
 - 3)雄物川水系大規模氾濫時の減災対策及び流域治水プロジェクトについて

3. 主な意見・コメント等

- (湯沢河川国道事務所長)
- ・馬場目川水系では令和4年8月に記録的な豪雨に見舞われ、五城目町の内川川で深夜に急激な水位上昇した結果、甚大な浸水被害等が発生しており被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。
 - ・本協議会を通じて、各機関での連携の方向性の発見、或いは、内容や進捗について、良い意味で競い合い、また、切磋琢磨し合うような関係性の構築に結びついていければと考えております。
- (仙北市総合防災課長)
- ・山間部に近い市街地では、急激な水位上昇も予測されることから、平時より水防資材の充実・備えて参ります。
 - ・供養土砂災害から今年で10年となり、訓練や防災教室を実施、甚大な災害を風化させないよう取り組む。
- (秋田森林管理署総括治山技術官)
- ・大雨では流木が橋梁に引っかかり災害が拡大する事案もあり、最上流部において流木抑止する事業を実施している、最上流部の事業者として間伐などの保安林機能を維持増進し国土保全に努めて参りたい。
- (森林整備センター秋田水源林整備事務所長)
- ・森林の有する公益的機能の高度発現を図る森林整備事業は、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、流域治水の強化促進に寄与するものである。
- (西奥羽土地改良調査管理事務所長)
- ・相野々ダムの簡易流量予測システムについては、気象庁からの予測降雨量を活用しい事前放流を予測するシステムであり、令和5年度、土地改良区と共有して運用をして参りたい。



湯沢市長

(湯沢市長)

- ・マイタイムラインについては、住民の方が行動を起こしていただかないと何ともならないことから、今後も、様々な方を対象にして、講習会を実施していきたい。
- ・防災無線のほか、テレビ回覧板という形で、データ放送に載せて情報発信している。
- ・「防災士の会」についても、本当に防災意識の高い方が地域で積極的に活動していただけるというのは心強い、市として積極的に支援して参りたい。
- ・地区の防災計画というものを自主防災組織で作成し、市の地域防災計画の中に組み入れた先進的な事例を広めていきたい。
- ・多段階の浸水想定区域については、しっかり住民の皆様へ伝えていかなければならないと改めて感じた。



羽後町長

(羽後町長)

- ・防災機関や地元住民と連携をした排水ポンプ配備体制の整備、防災ハザードマップ等を活用した住民の防災教育を実施している。
- ・緊急告知FMラジオを現在全世帯と事業所を対象に配布を進めており、令和5年度の配備完了・運用開始を予定している。なお、本ラジオは避難情報等を自動起動により配信するもので、住民への情報伝達が確実なものとなる。
- ・町はこれまで大きな浸水被害が50年近くないが、決して油断することなく、きめ細やかに、住民の皆様と一緒に災害対策をしていきたい。



美郷町長

(美郷町長)

- ・市街地の六郷地区で路面排水が十分でないという事例が発生しており、排水路上流域からの流れ込む量と、それをどのように減らすのかということも併せて考えることが重要。
- ・田んぼダムについては、効果を住民の方及び農地所有者である農家の方々により理解してもらい、田んぼダムが普及していくように推進して参りたい。
- ・いずれ上流、下流は繋がって流域であり、下流域において排水が十分に処理がされないとバックウォーター現象も発生することから、上流域について我々としても少し意識を持って、様々なとれる対策を今後検討して参りたい。



大仙市長

(大仙市長)

- ・内水氾濫への対策として、常設の排水ポンプの設置、業者と連携した可搬式ポンプの配備、さらには大型排水ポンプ車を配備するなど、毎年のように排水体制の強化に取り組んできている。
- ・田んぼダムについては、先ほど美郷町長よりこの取り組みについて前向きなご発言をいただき、下流の大仙市としては大変心強く感じた。
- ・隣接市町村間の連携による広域避難体制の構築も重要であると考えている。
- ・今後も、田んぼダムの取り組み面積の拡大、遊水地や調整地など、被害箇所に応じた効果的な対策について引き続き検討したい。



三種町長

(三種町長)

- ・昨年8月の豪雨災害より、タイムラインの重要性について再認識し、三種川に対応したタイムラインの見直しを県総合防災課等と進めている。
- ・三種川水害時の町の行動計画をまとめた発令判断基準についても整備し、運用を開始している。
- ・近年の気象変化も分析しながら、地域住民が適切に避難できるよう引き続き取り組んで参りたい。